

# やまがた道の駅ビジョン2020（案）〔概要〕

資料 1 - 1  
平成28年 2月16日  
県土整備部

## 現状と特徴・課題

- ・ 駅の数が少なく、配置の地域差がある
- ・ 一体型が少ない
- ・ 幹線国道に集中している

### 休憩機能

**トイレ**  
洋式化・多機能化への対応が遅れている  
(洋式化率:男子49%、女子48%)

**電気自動車(EV)用急速充電設備**  
全ての駅に完備  
(「道の駅」における都道府県別設置率 全国1位)

**車中泊専用エリア (RVパーク)**  
全ての駅で車中泊利用の実態が確認されているが、対応している駅は少ない (1駅のみ)

### 情報発信機能

**無料公衆無線LAN (Wi-Fi)**  
インバウンド(訪日外国人旅行者)対応の基本となる無料Wi-Fiの環境整備に開きがある (過半数の駅で未整備)

**道路情報提供**  
県管理道路等に面した駅では、情報が近傍道路の内容に限られ、峠道の路面凍結等の冬季の情報提供が不十分

### 地域連携機能

**産地直売所(産直)**  
地元農産品に品薄が生じることや伝統野菜の取扱に差がある

**物品販売(物販)**  
地元特産品・加工品の取扱状況に差がある

**観光**  
広域的な観光案内や情報更新の頻度が駅により差があり、観光案内所の場所のわかりにくさや、パンフレット等の配置が整理されていないなど、情報を入りにくい面がある  
(JNTO(日本政府観光局)認定の外国人観光案内所は2駅)

## 骨子案に対するみちづくり評議会からの意見

**その他の機能① 防災機能**  
18駅のうち10駅が市町村地域防災計画に位置付けられているが、防災設備や備蓄が十分ではない状況がある

**その他の機能② 機能の多様化**  
他県では、地方部において複数の生活サービスを集約して提供する「小さな拠点」や、学習機能、創作・体験機能等、プラスαの機能を併せ持つ「道の駅」が増えてきている

## やまがた道の駅ビジョンの基本的考え方

### 基本目標

本県の高速度道路整備率が8割となり、東京オリンピックが開催される2020年代初頭までに、山形らしい魅力を持った「やまがた道の駅」を現在の18駅から30駅程度に増やし、活用することにより、観光振興等による『やまがた創生』に資する。

### 「やまがた道の駅」の配置や考え方

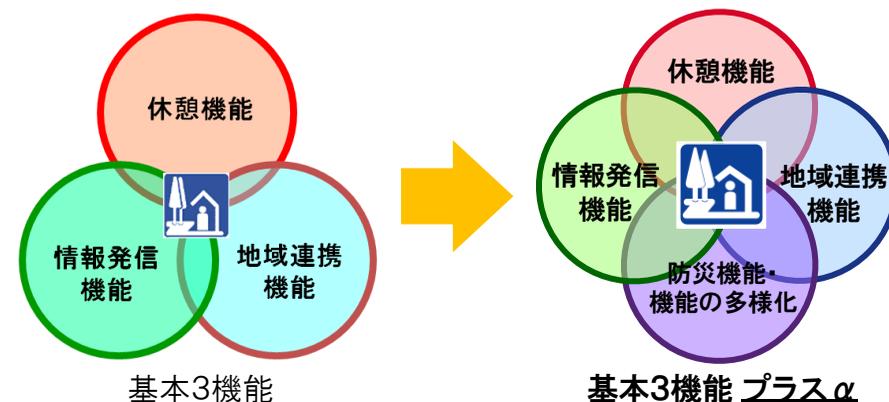
「やまがた道の駅」の新設や移設に当たっては、主に次の事項に考慮して配置を検討する。

- 1) 地域間のバランスをとること
- 2) 高速道路等からのアクセスがよいこと
- 3) 他の「道の駅」や類似の施設から一定の間隔を保つこと

### 「やまがた道の駅」が目指すべき将来像(ビジョン)

山形らしい魅力をもった「やまがた道の駅」が、2020年代初頭までに目指すべき将来像(ビジョン)は次の5つであり、これらを実現することにより、まず寄ってもらい、次に巡ってもらうための地域に根付いた「道の駅」になることを目指す。

- 1) 「山形らしい」基本機能を有する「道の駅」
- 2) 各々が独自性を持っている「道の駅」
- 3) 互いに連携している「道の駅」
- 4) 誰もが行きやすい「道の駅」
- 5) 誰もが参加できる「道の駅」



### 「やまがた道の駅」の基本機能

基本3機能

#### ひとにもくるまにも優しい休憩機能

お年寄り、子供・赤ちゃん、外国人など全ての利用者にとって快適なトイレ環境を整える。また、県内で電気自動車を安心して利用できるように、EV用急速充電設備を完備する。さらに、車中泊の需要が見込まれる「道の駅」については車中泊専用エリア(RVパーク)を整備し、ごみ投棄や電気の無断使用などの問題を解決する。

【主な施策目標】トイレの洋式化・多機能化 目標:3駅→全駅  
EV用急速充電設備の整備 目標:全駅  
車中泊専用エリア(RVパーク)の整備 目標:1駅→10駅

#### 日本が初めて、やまがたが初めての人を助ける情報発信機能

インバウンド対応として、訪日外国人旅行者が無料でインターネットにアクセスし、必要な情報を取得できるようにする。また、豪雨・雪崩等による通行止め発生時や、冬季の路面凍結・地吹雪等の発生時に、土地勘がなく、特に雪国での運転に不慣れな旅行者に対して、これらの情報を迅速に提供することにより、安心して運転できるようにする。

【主な施策目標】Wi-Fi環境の整備 目標:9駅→全駅  
通行止め・路面凍結等の情報提供 目標:9駅→全駅

#### やまがたを発信し、新たな仕事を生む地域連携機能

山形の最大の強みである「食」を提供するため、伝統野菜等、各地域ならではの食材を出品するとともに、「道の駅丼」やオリジナルのジュース・スイーツ等の共通して取り組むテーマを設定し、各駅が独自商品を開発・提供していく。

【主な施策目標】伝統野菜の出品 目標:3駅→8駅  
地域食材を使ったメニューの提供 目標:12駅→全駅

県産品や6次産業化によって新たに生産される商品を県外客に提供する地域アンテナショップを兼ねた物販を展開する。

【主な施策目標】物販における県産品の割合 目標:全駅で県産品8割

全ての「道の駅」において観光案内所を設置し、全県の観光案内を分担して行うことにより、観光拠点としての「道の駅」の地位を確立し、旅行者が必ず立ち寄るようにする。また、ゲートウェイやインバウンド観光の拠点となる「道の駅」では、広域案内や外国人向け案内を実施する。

【主な施策目標】観光案内所の整備 目標:全駅

プラスα機能

#### いざという時、頼りになる防災機能

地域防災計画に位置付けられている「道の駅」については、有事の際、計画に定められた役割を確実に発揮できるよう、必要な防災設備等を整備する。

【主な施策の例】  
■避難所の例: 災害用トイレ・自家発電装置等の整備、毛布・食料等の備蓄  
■防災拠点の例: 耐震貯水槽、ヘリポート(防災対応離着陸場)等の整備

#### 機能の多様化 ~『やまがた創生』に資する独自の取組みの展開~

『やまがた創生』に資する地域の実情に応じた独自の取組みを展開する。

【取組みの例】  
■小さな拠点の形成 ■教育機関との連携企画や就労体験  
■特産品(伝統工芸)の制作実演、体験 など